



安全管理委員会からの耳より情報 VOL. 25



2022年～2023年シーズンのインフルエンザについて

インフルエンザウイルスは、国内で新型コロナウイルス流行が始まった2020年2月以降、検出の報告は少ない状況でした。これは、新型コロナウイルス対策として普及した手指衛生やマスク着用、3密回避、国際的な人の移動の制限などの感染対策がインフルエンザ予防にも効果的であったためと考えられています。尚、北半球の冬季のインフルエンザ流行を予測する上で、南半球の状況が参考となります。オーストラリアでは、2022年4月後半から報告数が増加、新型コロナウイルス流行以前を超えるレベルの患者数となりました。

過去2年間、国内での流行がなかったために、社会全体のインフルエンザに対する集団免疫が低下していると考えられます。更に海外からの入国が緩和され人的交流が増加すれば、今秋から冬には同様の流行が起こる可能性があります。

2021年～2022年、欧米ではA香港型による流行がみられ、中国でも今年に入りA香港型が増えています。又、オーストラリアでも約80%がA香港型でした。そのため、今シーズンは、国内でもA香港型の流行が主体となることが予測されています。

以上のことより、日本感染症学会では、今季のインフルエンザ対策についての見解が発表されています。

1. 2022年～2023年シーズンは、インフルエンザ流行の可能性が大きいです
2. A香港型の流行が予想されます
3. 今季もインフルエンザワクチン接種を推奨します
4. 例年通りのインフルエンザ対策が必要です



[出典・参考資料]

日本感染症学会：2022年～2023年シーズンのインフルエンザ対策について